「電子情報実験 II」 について

2012. 9. 27. 久保英範, 高藤 裕, 倪 宝栄

1. 学生実験の目的

第1に, 講義と連携して, 講義とは異なる観点から講義の重要事項を理解し, 身につけること.

第2に, 実験の基本的技術・技能を身につけること.

2. 学生実験に関する学生の対応

(1) 実験前

*実験の前に, 実験目的と理論を勉強する. 理論を頭に入れて実験に臨む.

*理論については, 自分が勉強して, 自分として理解した事を, レポート前半として書く. ただし, 自分の言葉で書く. 実験指導書の丸写しはあまり評価しない.

*今年から, 指導書の図や回路などを携帯電話で写した写真や, コピーした回路図などをそのままレポートに載せる事が大流行している. しかし, これは受け入れない. レポートはD, E評価として再提出とする.

*実験開始時に実験目的, 理論, 実験のレポート前半部を提出する (表紙付き). 教員は評価し, 実験終了時に返却する. ただし, 提出しないから実験させないという対応はしない.

*実験には実験内容のプリントおよび筆記用具は必ず持参すること.

(2) 実験

*積極的に実験する. 自分自身でやればやるほど身につく. 実験しない人は授業料をドブに捨てているようなもの.

*分からない点などは積極的に質問する (遠慮は不要).

(3) 実験後

*実験結果の整理と検討課題に真剣に取り組む.

3. 実験レポートについて

*目的, 理論, 実験の文章, 理論部分の図や回路図, 実験結果の図表などを手書きかワープロかは以下のように担当教員によって異なる.

電子回路関係テーマ (久保担当)

レポートの手書き, コンピュータともに可. 実験結果のグラフは手書き, コンピュータともに可であるが, 両方添付がもっといい.

計測基礎 (高藤担当), および, 情報関係 (倪担当):

レポートは, 検討課題も含め, 本文は手書きのみを受け付ける. ただし, 図表は手書き, コンピュータともに可.

*検討課題について友人と議論する事は勧める. 望ましい事である. しかし, その結果, 自分が理解した事を自分の言葉で書かなければならない.

*丸写しはダメ (丸写しはすぐに分かる). 写した学生も写させた学生も減点する.

*検討課題をインターネットからそのまま引用するレポートがときどきある. しかし, これはほとんど評価しない.

- *他人の作ったコンピュータデータのコピーは減点対象とする（写した学生も写させた学生も減点）。
- *手書きのレポートは、丁寧な読める字で、かつ、論理的な文章で書くこと。これらの点も評価の対象とする。
- *D, E評価のレポートは再提出。再提出レポートの最高評価はCとする。
- *再提出レポートは前回のレポートに加えて修正文を付け加える。
- *レポートの提出締め切りは、次回実験の開始時間（9時）とする。
- *実験にはすべて出席し、レポートはすべてのテーマについて提出することが単位認定の原則である。

<嚴重注意>

他人のレポートを丸写した場合、もしくは、その事を強く疑う根拠がある場合、程度に応じて、評価を下げる。科目全体を再履修とする場合もある。

(以上)

改めて

<重要な改正点>

- *実験開始時に実験目的、理論、実験のレポート前半部を提出（表紙付き）。
- *実験にはすべて出席し、レポートはすべてのテーマについて提出することが単位認定の原則。
- *他人のレポートを丸写した場合（丸写しはすぐに分かる）、もしくは、その事を強く疑う根拠がある場合、程度に応じて評価を下げる（写した学生も写させた学生も）。科目全体を再履修とする場合もある。